１　都をばかすみとともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関

２　会津嶺の国をさ遠み逢はなはば偲ひにせもと紐結はさね

３　陸奥のしのぶもちずり誰ゆへにみだれむと思我ならなくに

４　陸奥の真野の草原遠けども面影にして見ゆといふものを

５

６

７

８

９

10

11　早苗とる手もとや昔しのぶ摺

12　梅か香にのつと日の出る山路哉

13　春もやゝ気しきとゝのふ月と梅

14　風流のはしめやおくの田うゑ歌

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30